

2009 年8月7日
第001号

自然と文化だより

発行 NPOシニア自然大学
自然と文化科

==== 目次 =====

P1

今号の TOPICS

より楽しい「自然と文化科」を目指して
代表 九津見 明

P2

仲間たちの近況報告

1班

鞍馬から貴船へ
奇想天外・荒唐無稽な伝説と自然

P3

2班

高山植物を愉しむ

3班

音楽は心の潤滑油

P4

4班

主基祭田

広報

箕面 自然観察 検定
みんなでチャレンジしよう

====

◇主要行事予定

後半も各班の提案を出来るだけ尊重し、皆さんが参加しやすい企画を提供します。

また、今後の活動には研究科のテーマでもあります「淀川水系」にかかわるものも取り上げます。

主要行事の 1 泊研修旅行(10月 22・23 日)は初秋の岡山森林公園を考えています。

====



====



今号の TOPICS

★より楽しい「自然と文化科」を目指して

代表 九津見 明

私がシニア自然大学に入学して今年で7年目である。入学時には60才を既に過ぎていたが、出来るならあと2～3年ほど在籍したいと思っている。我々は小学校を終えたあと、中学校へ入り大学を卒業するまでに最低10年かかった。この10年間で、その後の人生を送る様々な基盤が形成されたと思う。その基盤をベースに、人生の約半分を過ごしたが、60歳以降の熟年期の人生はその延長線上では新鮮さに欠け、惰性になりかねない。

そこで60歳以降に、新たに約10年間をかけて何かを経験すれば、今後の人生は時間的には短い、従来とは全く違った生き方が見えてくるのではないかと考えている。

自然と文化科の方針には従来から、「参加して楽しい」という文言が入っている。私達の年代では、何事も参加して楽しくなければ絶対に長続きはしないと思う。学びでも、遊びでも、ボランティア活動でも然り。私は、現在偶々、自然と文化科のお世話をする立場にあるが、いつもこれを強く意識している。私達の科は、全て自作自演である。皆で考え、計画し、実行する。楽しくなければ目的意識も参画意識も希薄になるだろう。現実の「自然と文化科」は、新入会の諸氏の期待とは違っているかもしれないが、今後も運営面などへの積極的な参加を期待している。

このたび、発刊の運びとなった「自然と文化だより」への投稿・編集なども是非、楽しみながらの活動の一環にしてもらいたい。

「自然と文化科」は設立以来、今年で6年目である。その間、科員数は、15、29、48、62、69、80人と、毎年15～20人ずつ増えてきている。喜ばしい限りであるが、本年度と同様の活動をこれからも継続するには、限界に近い人数になっていると思う。今後も、「楽しく、自作自演」等の方針を堅持するには、何らかの策が不可欠であろう。すでに検討は始まっており、この誌上での問題提起は相応しくないかもしれないが、現実の課題として多くの科員のアイデアと協力を期待している。

揺籃期を終え、やっと形作りが出来つつある「自然と文化科」をより存在感があり、科員が楽しく活動できる場にするため、皆で知恵を出し合ひましょう。本件の結論は急がれているが、現科員が次年度以降も参加して楽しめ、人生に潤いを与える科であり続けることが最優先であることは論を待たない。

鞍馬から貴船へ
—奇想天外・荒唐無稽な伝説と自然—
1班 和田啓志

鞍馬山といえば、“鞍馬天狗と牛若丸”、“鞍馬の火祭り”が有名。ところが、入山料を払った時にもらう“オフィシャル・パンフレット”に拠ると、“奥の院魔王院”は「650 万年前、金星より地球の霊王として天降った、地上の創造と破壊を司る護法魔王尊が奉安されている。累々と石灰岩が重なる柵内は、日本庭園の源流といわれる磐座（イワクラ）である。」と書かれている。そして、鞍馬山（寺）の本尊は“尊天”で、①護法魔王尊（金星人）、②毘沙門天（チベット人）、③千手観音菩薩（日本人）の三位一体となったものとか。また、山内にある義経堂には奥州衣川で自害した義経の魂が鞍馬へ戻って来て、護法魔王尊の脇侍「遮那王尊」となった。いずれにしても、奇想天外・荒唐無稽な鞍馬山である。

“牛若丸と天狗”“火祭りの起源（安倍晴明時代の動乱・天変地異を鎮める）”“空飛ぶ空海（明けの明星から生まれた宇宙人）”“翔雲台（尊天の降臨場所）”etc. 拾い出すときりがない。

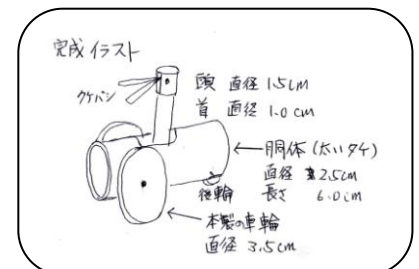
こんなパンフレットを読みながら歩いていると、鞍馬山の自然は誠に豊かで、このような伝説的な話が出来上がるのも合点の行くところがある。峠には“大杉権現”（樹齢千年の大杉）が聳え、見事な“木の根道”が出来上がっている。岩盤が固く、地下に根を張れない杉の根が見事なアラベスク模様を描いているもので、牛若丸が兵法の稽古をした所といわれ、五条の欄干の上を舞えたのもうなずける。そして「僧正ガ谷」一帯は杉の大樹がそびえ立ち、森の気が満ち、牛若丸が鞍馬天狗と出会い、秘密の修行をしたところ。このあたりの森は“極相林”を形成しており、シイ・カシなどの陰樹が鬱蒼と茂っていて、フジの巨大な古株が横たわっている。

案内板によると、鞍馬山は2億6千年前の海底地質から成り立っており、砂岩・泥岩・頁（ケツ）岩・凝灰岩・石灰岩が主体で、珍しいものに、“天狗の卵”（熔岩の貫入による石英閃緑岩が玉葱状に風化したもの）や溶岩の路頭も見られる。緑色岩・チャート・グリーンストーン等、が見られるとか。このような地質が素晴らしいエネルギーを発生し、霊山の“気”となり、“金星”と結びついたのでは。

何れにしても、鞍馬山は極相林を筆頭に、大杉、カゴノキ、サルスベリ、ムクノキなどの巨木が茂り、自然は豊か、草花も数知れず。

奥の院から一気に山を下り、貴船神社へ、こんな山の中に“船”とは。“玉依姫”が黄船に乗って浪速～鴨川を遡上してたどり着いたところが貴船、よって貴船神社は水の神（海上安全）、縁結びの神が由来。そして、貴船神社の“奥の宮”には舟を形取った石積み（御船形石）がある。この水に因んで、涼しい川床料理と洒落込むのはいかが。

2009. 6. 26



高山植物を愉しむ 2班 伊東吉夫	音楽は心の潤滑油 3班 川口美智子
10 年ほど前から高山植物に興味を持ち始め、1,000～3,000m程度の夏山登山をしながら高山植物の写真撮影や植生調査を登山ツアーに参加し個人的に行っています。 今までに登った山としては、北海道は大雪山系、利尻岳、トムラウシ山、雌阿寒岳・雄阿寒岳、斜里岳、アポイ岳など、東北は月山、鳥海山、岩手山、岩木山、八甲田山、栗駒山、秋田駒が岳、焼石岳、鳥海山、安達太良山、磐梯山など、北アルプスは立山、白馬岳、雪倉岳、朝日岳、奥穂高岳、常念岳など、中央アルプスは木曾駒ヶ岳、南アルプスは甲斐駒ヶ岳、仙丈が岳、北岳、荒川三山、赤石岳など、北陸・近畿・中国の南八ヶ岳、白山、伊吹山、大台ヶ原、大山など、四国は剣山、石鎚山、屋久島の宮之浦岳などの百名山や花の百名山と称する山々を 40 前後登り、花の写真の枚数は既に万単位になっています。植生調査については、高度計で高さを確認しながらの草木のチェック、シカの被害状況、植生帯の確認などを行っており、昨年は人と自然の博物館の研究発表会「共生の広場」において、「高山植物の危機」というテーマでパネル発表を行いました。この発表会は既に 4 年目になりますが毎年参加し発表を行っています。 登山中に観察した希少な野生ランとして、高峰山のイチヨウラン、焼石岳のオノエラン、ノビネチドリ・テガタチドリ・ハクサンチドリの三重奏など、舟伏山のイワザクラ（これはアポイ岳でも見られました）、四国や島根・岡山県でのイズモコバイモ、カイコバイモ、トサコバイモ、アワコバイモなどの自生、大台ヶ原のシロヤシオの群生などが印象に残っています。昨年は南八ヶ岳のツクモグサ、美濃戸口下山道付近で見かけたホテイランや、大雪山緑岳・赤岳・黒岳・旭岳でのチンググルマ、アオノツガザクラ、エゾノツガザクラ、チシマツガザクラ、エゾコザクラ、イワヒゲなどの大群生やホソバウルップソウ、由布岳近くの野焼き後のキスミレなどが印象に残っています。 インプリテーションも大事、植物の細かい構造とか違いの話も大事とは思いますが、すなおに美しい花を見て感動する、咲いている花を愉しむ事が私にとっては大切なことと考えています。	「歌は世につれ、世は歌につれ」 昔よく聞いた言葉です。 音楽はその時代をも反映して作られ、歌われ、歌い継がれていきます。 曲によって好き嫌いはあると思いますが、音楽そのものが嫌いな人はほとんどいないと思います。しかし年齢によっても、また生きてきた歴史によっても、音楽に対する受け止め方・感じ方も異なると思います。 私自身も年代により、またその時の気分によってよく聞く曲も変わってきました。小学生時代は“赤とんぼ”“みかんの丘”など童謡中心に聞いたり、雨降りの通学路では、長靴で水溜りに入りながら「あめあめふれふれ母さんが・・・」などによく歌ったものでした。 青春時代以降は、映画を観ては“雨に唄えば”“慕情”“ある愛の詩”などレコードを買っては聴いていました。その他演歌・クラシック・ロシア民謡・シャンソンなどなどあらゆるジャンルの音楽をBGMとして家事をしながら聴き、ハミングしたり、唄ったりしました。そのようにして楽しいときはより楽しく、悲しいときには慰めとなり、いつも音楽が身近にあります。 最近特に好きな歌ができました。竹内まりやの“人生の扉”です。初めてこの曲に出会ったのが1ヶ月余り前、テレビの音楽番組でした。残雪のアルプスの山々に満開の桜と菜の花が画面いっぱいに咲き広がった中で、この曲が流れ、それまで片付けをしながら聞いていたのが、思わずその画面に釘付けになり聴き入ってしまいました。さっそくCDを買い求め夜寝る前に聴くのが日課となりました。 歌詞の一部を紹介します 『君のデニムの青が 褪せてゆくほど 味わい増すように 長い旅路の果てに 輝く何かが 誰にでもあるさ』 60代・70代・80代・90代と年齢を重ねてゆくほどにそれぞれ素晴らしい人生があるよとも歌っています。 後何年無事に人生を過ごせるかわかりませんが心身とも健やかに一日一日を悔いなく生きていけるといいな、とあらためて考える日々です。

す き さい でん
主 基 祭 田

4 班 三 浦 節 子

讃岐の国の我が故郷は地図に高松空港が少し入る大正天皇がご即位の時の献上米を作った村です。献上したことを記念してその田圃は主基祭田と呼ばれています。そのことが村人たちの誇りでもありました。今はそのことを忘れないように再現して毎年お田植え祭が行なわれます。

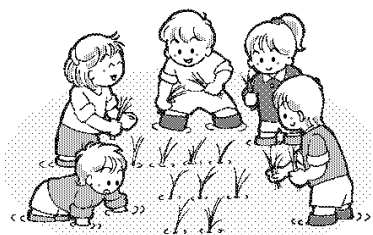
当時そのままに、太鼓などに合わせて緋に赤いタスキがけの衣装をつけた早乙女が早苗を植えるのです。

中学校の生徒が管理をしていました。収穫がすむとウドンなど地域の人たちと生徒がつくり接待してくれます。その日は嬉しくて普段は食べられないほどのウドンをたべました。

献上したことを記念して小学校の講堂は記念館といわれていました。

記念室(社会科研究室)という部屋もありました。父の従兄弟が北白川殿下と陸軍士官学校の学友だったため事故死(戦死)?をされた殿下の遺品がその田舎の小学校の記念室に飾っていました。あれから50年、記念室のあの品はどうなったのだろう?学校も木造から鉄筋に変わり在校時の面影はほとんどなくなりました。

親も兄弟もなくなり墓参りだけの里帰り、時間をつくり是非でかけて村人ともゆっくり、旧交をあたためたい、祭田の話も聞きたいと思っています。



広報より

箕面自然観察の検定問題を募集します。

観察会にも活用できると思いますので奮って応募願います。今回の解答は次号です。

俳句、川流などの投稿をお願いします。

次号は10月発行予定

次号のTOPICSは社会貢献の活動理念を予定。

皆様のご協力により1号紙が発刊できました。投稿していただいた皆様ありがとうございます。

編集 谷坂修二

箕面 自然観察 検定
みんなでチャレンジしよう

1【箕面の滝はいつできたか】

1. 2万年前ごろ 2. 20万年前ごろ
3. 200万年前ごろ 4. その他

2【箕面の滝は最初どこにできたか】

1. 今の滝の場所 2. もっと上流
3. もっと下流 4. その他

3【箕面のサルを自然に返すために(サルに餌を与えない。食べ物を見せない。近づかない)看板を見かけます。さて、自然と文化科の皆さんはサルを見かけたらどうしますか】

1. 見て見ぬふりをする。 2. 写真を撮る。
3. 見つけたら追い払う 4. 観察をする。

4【箕面の山には鹿の名前と関係のある植物がいます。どの木でしょう】

1. カナクギノキ 2. カゴノキ
3. コバンノキ 4. イロハモミジ

5【箕面のモミジ天ぷらは、おかずのテンプラではなく御菓子です。どの種類のモミジが使用されているでしょうか】

1. イロハモミジ 2. 一行寺モミジ
3. ハウチワカエデ 4. イタヤメイゲツ

6【箕面の観鳥台は鳥の渡りが観察されます。10月頃渡りが観察できる鳥は】

1. サシバ 2. ツバメ
3. ハクチョウ 4. カモ

7【お寺の裏の道筋にコバノミツバツツジが早春、新葉の展開に先だって紫から淡紫色の花を咲かせる。茎端から3枚の葉を出すので見つけやすい。コバノミツバツツジの花は一本のめしべの周りに何本のおしべが出るでしょうか】

1. 1本 2. 3本 3. 5本 4. 10本

8【オが原池に淡水クラゲが住んでいます。クラゲの観察が出来る時期はいつですか】

1. 冬期 2. 春期 3. 夏期 4. 秋期

9【谷筋に多く見られるサザンカは漢字で書くと】

1. 山茶花 2. 山椿 3. 散々花 4. 散茶花

10【オが原池への分枝路近くにウワミズザクラとイヌザクラの花が咲きます。同定のしかたでウワミズザクラはどちらでしょう】

1. 上向きの花序の基部に葉がある
2. 上向きの花序の基部に葉がない
3. 下向きに花序をたらす。
4. 秋に総状花序つけ白い小さな花を多数つける。